作成日 2002/01/01
改訂日 2026/06/01

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

| | |
|---|---|
| 化学品の名称 | 無水酢酸カリ |
| 供給者の会社名称 | エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社 |
| 住所 | 神奈川県川崎市川崎区千鳥町1番2号 |
| 担当部門 | RC推進部 |
| 電話番号 | 044-266-6351 |
| 緊急連絡電話番号 | 上記担当部門 |
| 推奨用途 | 工業用一般 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質専門家等の判断を仰ぐこと。 |

## 2. 危険有害性の要約

| | |
|---|---|
| 化学品のGHS分類 | GHS分類に該当するデータは得られていない。 |
| 他の危険有害性 | 情報なし |
| 重要な徴候及び想定される非常事態の概要 | 情報なし |

## 3. 組成及び成分情報

| | |
|---|---|
| 化学物質・混合物の区別 | 化学物質 |
| 化学名又は一般名 | 酢酸カリウム |

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 化審法 | 安衛法 | |
| 酢酸カリウム | 100 % | $KCH_3CO_2$ | (2)-692 | 既存 | 127-08-2 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　情報なし

## 4. 応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。<br>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 眼に入った場合 | 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。<br>飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | 情報なし |
| 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 | 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | 情報なし |

## 5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 適切な消火剤 | 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。<br>粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。 |
| 使ってはならない消火剤 | 棒状注水。 |
| 火災時の特有の危険有害性 | 燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消 |
| 特有の消火方法 | 消火作業は、風上から行う。<br>周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。<br>火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。<br>関係者以外は安全な場所に退去させる。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。 |

## 6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。<br>多量の場合、人を安全な場所に退避させる。<br>必要に応じた換気を確保する。 |
| 環境に対する注意事項 | 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏出したものを掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。 |
| 二次災害の防止策 | 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

| | | |
|---|---|---|
| 取扱い | 技術的対策 | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。<br>蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。<br>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| | 安全取扱注意事項 | 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。<br>飲み込みを避けること。<br>皮膚との接触を避けること。<br>粉じん、ヒュームの吸入を避けること。<br>ガスの吸入を避けること。 |
| | 接触回避 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| | 衛生対策 | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| 保管 | 安全な保管条件 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。<br>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。<br>酸化剤から離して保管する。<br>冷所、換気の良い場所で保管すること。<br>容器を密閉して保管すること。 |
| | 安全な容器包装材料 | 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。<br>潮解性があるので密閉容器・耐湿性袋等に入れて保管する。 |

## 8. ばく露防止及び保護措置

| | 管理濃度 | 許容濃度(産衛学会) | 許容濃度(ACGIH) |
|---|---|---|---|
| 酢酸カリウム | 未設定 | 未設定 | 未設定 |

| | 厚生労働大臣が定める濃度の基準 | |
|---|---|---|
| | 8時間濃度基準値 | 短時間濃度基準値／天井値 |
| 酢酸カリウム | 未設定 | 未設定 |

| | | |
|---|---|---|
| 設備対策 | | 蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。<br>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 保護具 | 呼吸用保護具 | リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な呼吸用保護具を選択し、着用すること。 |
| | 手の保護具 | リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護手袋を選択し、着用すること。 |
| | 眼、顔面の保護具 | リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な眼および顔面の保護具を選択し、着用すること。 |
| | 皮膚及び身体の保護具 | リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。 |
| 特別な注意事項 | | 情報なし |

## 9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---|---|
| 物理状態 | 固体 |
| 形状 | 固体(結晶) |
| 色 | 無色～白色 |
| 臭い | 酢酸臭 |
| 融点／凝固点 | 292 ℃ |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | データなし |

| | | |
|---|---|---|
| 可燃性 | | 可燃性 |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | | |
| | 下限 | データなし |
| | 上限 | データなし |
| 引火点 | | データなし |
| 自然発火点 | | データなし |
| 分解温度 | | データなし |
| pH | | 9.7(0.1M溶液) |
| 動粘性率 | | データなし |
| 溶解度 | | データなし |
| n-オクタノール／水分配係数 | | データなし |
| 蒸気圧 | | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | | データなし |
| 相対ガス密度 | | データなし |
| 粒子特性 | | データなし |
| その他のデータ | | 潮解性 |
| 酢酸カリウムとして | | |
| 融点／凝固点 | | 292 ℃ |
| 溶解度 | | 水：217 g(100 g, 0 ℃), 水：396 g(100 g, 90 ℃), 100 gのエタノールに33 g可溶, エーテルに不溶 |
| 密度及び／又は相対密度 | | 1.57 g/cc(25 ℃) |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性 | 空気中の水分を取り込み潮解する。 |
| 化学的安定性 | 通常条件では安定。 |
| 危険有害反応可能性 | 加熱や強酸との接触により分解し、酢酸フュームを生じる。<br>強酸化剤と激しく反応する。 |
| 避けるべき条件 | 加熱、裸火、スパーク、発火源。混触禁止物質との接触。 |
| 混触危険物質 | 強酸、強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | 炭素酸化物、酸化カリウム |
| その他のデータ | 情報なし |

## 11. 有害性情報

| | | |
|---|---|---|
| 急性毒性 | 経口 | ラット(経口)$LD_{50}$＝3250 mg/kgより区分外とした。 |
| | 経皮 | データ不足のため分類できない。 |
| | 吸入 | (気体)<br>GHS定義による気体ではない。<br>(蒸気)<br>データ不足のため分類できない。<br>(粉じん・ミスト)<br>データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚腐食性／皮膚刺激性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 呼吸器感作性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 皮膚感作性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖細胞変異原性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 発がん性 | | データ不足のため分類できない。 |
| 生殖毒性 | | (生殖毒性)<br>データ不足のため分類できない。<br>(生殖毒性・授乳影響)<br>データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | | データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | | データ不足のため分類できない。 |
| 誤えん有害性 | | 動粘性率が不明のため、分類できないとした。 |
| その他のデータ | | 情報なし |

## 12. 環境影響情報

| | |
|---|---|
| 水生環境有害性　短期(急性) | データ不足のため分類できない。 |
| 水生環境有害性　長期(慢性) | データ不足のため分類できない。 |
| 生態毒性 | データなし |

| | |
|---|---|
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生体蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | データ不足のため分類できない。 |
| その他のデータ | 情報なし |

## 13. 廃棄上の注意

| | |
|---|---|
| 残余廃棄物 | 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。<br>内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。<br>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

## 14. 輸送上の注意

| | | |
|---|---|---|
| 国際規制 | 海上規制情報 | 非該当 |
| | UN No. | Not applicable |
| | Proper Shipping Name | Not applicable |
| | Class | Not applicable |
| | Sub Risk | Not applicable |
| | Packing Group | Not applicable |
| | Marine Pollutant | Not applicable |
| | Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex Ⅱ, the IBC Code | Not applicable |
| | 航空規制情報 | 非該当 |
| | UN No. | Not applicable |
| | Proper Shipping Name | Not applicable |
| | Class | Not applicable |
| | Sub Risk | Not applicable |
| | Packing Group | Not applicable |
| 国内規制 | 陸上規制 | 非該当 |
| | 海上規制情報 | 非該当 |
| | 国連番号 | 非該当 |
| | 品名 | 非該当 |
| | クラス | 非該当 |
| | 副次危険 | 非該当 |
| | 容器等級 | 非該当 |
| | 海洋汚染物質 | 非該当 |
| | MARPOL 73/78 附属書II及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| | 航空規制情報 | 非該当 |
| | 国連番号 | 非該当 |
| | 品名 | 非該当 |
| | クラス | 非該当 |
| | 副次危険 | 非該当 |
| | 等級 | 非該当 |
| 特別の安全対策 | | 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確認する。<br>転落、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 |
| 緊急時応急措置指針番号 | | なし |

## 15. 適用法令

| | |
|---|---|
| 労働安全衛生法 | 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） | 非該当 |

## 16. その他の情報

| | |
|---|---|
| 参考文献 | ezSDS(JCDB)<br>国際化学カード(ICSC、2006)<br>RTECS（STNデータベース）<br>MSDS-OHS(STNデータベース）<br>CHRIP（NITE） |
| その他 | 全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。 |

本安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に基づき作成しています。